河北町地域公共交通計画における相関図（課題・基本方針・目標・取り組み方針と施策）

課題

町営バス
- 平日の夕方以降、土日祝日はほとんどの路線が運行しておらず、気軽に利用可能な移動手段がない。
- 朝１便目は通学利用を想定した早い運行時刻にしているが、学生の利用者数が少ない路線がある。
- 利用者数が１便あたり１人未満の路線や、１人あたりの輸送コストが膨大な額の路線がある。

タクシー利用助成制度（べにのすけタクシー）
- 地区によって利用に偏りがあり、制度の周知が十分にできていない可能性がある。
- 対象日が平日のみのため、土日祝日に利用できない。

路線バス（山交バス）
- 土日祝日の運行が取りやめとなり、休日の寒河江方面への移動手段がなくなった。
- 路線維持のためには、利用者数全体の底上げを図る必要がある。特に町内区間（河北病院バス停～谷地所岡バス停）の利用者数が少ない状況にある。

乗用タクシー（葉山タクシー）
- 平日朝の通院や買い物等の移動ニーズが集中する時間帯にタクシーの予約がとりにくい。
- タクシーや町営バスの運転を担う運転手が不足している。

おでかけカルテ・アンケート
- 子供の通学送迎に対する負担感がある。
- 平日の夜間や休日に、河北町と寒河江市を結ぶ新たな移動サービスのニーズがある。

住民懇談会（町内６地区）

西里地区
- 寒河江市が近いにも関わらず、谷地中央地区を経由しなければならないため、公共交通の利便性が良くないと感じる。（谷地を経由せずに直接行き来したい。）
- 高齢者のアプリ利用のハードルは高いが、これからは積極的に利用するような取り組みが必要ではないか。
- バス停が遠い（冬期間は圧雪で危険なため、特に困難）

溝延地区
- 寒河江市が近いにも関わらず、谷地中央地区を経由しなければならないため、公共交通の利便性が良くないと感じる。（谷地を経由せずに直接行き来したい。）
- 溝延地区⇔谷地中央地区の移動が困難。
- 公共交通の不便さが町外転出の原因という話を聞いた。

北谷地地区
- 公共ライドシェアへの取り組みを始めてみてはどうか。（地域内での助け合いの雰囲気がある）
- 高齢者のアプリ利用のハードルは高いが、これからは積極的に利用するような取り組みが必要ではないか。

谷地西部地区
- 親族で助け合うことで何とかなっているが、今後、交通弱者が増えた場合の対応をどうすればよいのか。

谷地東部線沿線地区
- スクールバスと町営バスがほぼ重複している時間帯があるので、見直してはどうか。
- 町営バスの利用者数が少ない。

谷地中央地区
- 独居老人が多くなっている。
- バス停留所が遠い。

全地区共通
- 小学校と病院の統廃合への対応
- 開業医の高齢化に伴う開業医減少への心配
- べにのすけタクシーの更なる周知
- 土日祝日の移動ニーズへの対応
- 町営バスの利用者数が少ない。
- アプリ（予約システム）の操作が難しいため、導入しても利用までのハードルが高い。
- まだ運転出来るため、当事者意識や危機感をあまり実感できない。

第８次河北町総合計画後期基本計画（まちづくりアンケート）

【河北町の改善してほしい点】
- 交通アクセス（高速道路、駅など） 52.46%
- 地域公共交通（バスなど） 48.24%

【今後の河北町に何が必要か】
- 地域公共交通の充実、駅や空港からのアクセス強化 68.40%

基本理念

町民一人一人のいきいきとした生活を支え、町の魅力を活かす移動手段

基本方針

基本方針１ 通学を支える移動手段
河北町に住む子どもたちが、町内の小学校・中学校・谷地高校に通うことはもとより、河北町に住み続けながら寒河江市・東根市・山形市といった町外の高校・大学・専門学校等にも通うことができるようにします。
加えて、町内唯一の高校である谷地高校が永続的に活力ある教育活動を展開できるよう、河北町外に住む子どもたちが谷地高校に通うことができるようにします。

基本方針２ 生活を支える移動手段
地域の積極的な協力・連携のもと、町内中心部の商業施設・医療機関・公共施設へ各地区からのアクセスと町内施設間の行き来ができるようにし、河北町で安心して住み続けられる基盤となります。
加えて、寒河江市へ整備される西村山新病院や東根市の商業施設のほか、鉄道等とも連携しながら山形市内の商業施設や医療機関も含めて、町民が町外施設へアクセスできるようにします。

基本方針３ 観光を支える移動手段
魅力あふれる河北町の観光振興の基盤となるよう、滞在型観光の拠点・体制整備の中で、観光客が町内観光資源や宿泊施設等の行き来をはじめとする町内周遊をできるようにします。
併せて、広域周遊にもつなげられるようにします。

目標

≪目標１≫ 町内６地区から町内外高校等への「通学しやすさ」の向上

≪目標２≫ 河北町外から谷地高校への「通学しやすさ」の向上

≪目標３≫ 地域公共交通に従事可能な運転手数の確保

≪目標４≫ 利用者１人当たり運行経費の基準額内への抑制

≪目標５≫ 河北町モビリティトライアルの継続的な実施

５年間（R8～R12）の取り組み方針と施策の概要

令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度

谷地高校生と町内在住高校生の通学手段確保【取り組み方針１】

施策１ 休日に河北町と寒河江市とを結ぶ新たな移動手段を導入します（基本方針1,2と目標1,2に対応）

土日の運行
- 町内外の高校生の通学（部活動など）および寒河江・山形方面への土休日における新たな移動手段の導入
  - ➢町営バス東根線やJR各線の運行時間とも調整し、河北町と山形市内との移動を円滑化します。
  - ➢導入後も、地域の関係者による協議体において、特に高校生の利用について毎月利用状況を確認・共有します。
  - ➢必要に応じて、運行方法や時間・経路等の改善や利用促進策の検討・実施を行います。

施策２ 平日の交通空白時間帯における町内と寒河江市とを結ぶ新たな移動手段の導入します（基本方針1,2と目標1,2に対応）

夜間の運行
- 町内外の高校生の通学および寒河江・山形方面への夜間における新たな移動手段の導入
  - ➢導入後も、地域の関係者による協議体において、特に高校生の利用について毎月利用状況を確認・共有します。
  - ➢必要に応じて、運行方法や時間・経路等の改善や利用促進策の検討・実施を行います。

早朝の運行
- 町内外の高校生の通学および寒河江・山形方面への平日早朝における新たな移動手段の導入
  - ➢平日早朝の運行方法や時間・経路等を検討します。
  - ➢運行に必要な運転手が確保でき次第、早期時間帯における運行を開始します。

施策３ 『べにのすけタクシー　ジュニア（仮称）』を新たに運行します（基本方針1と目標1に対応）

土日の運行
- 施策１の導入に合わせ、就学実態のある大学生までを対象とした若年層向けの「べにのすけタクシー　ジュニア（仮称）」を導入
  - ➢寒河江方面への新たな公共交通・町営バス東根線・山交バスの路線バス等との接続を目的とします。

夜間の運行
- 施策２の導入に合わせ、就学実態のある大学生までを対象とした若年層向けの「べにのすけタクシー　ジュニア（仮称）」を導入
  - ➢寒河江方面への新たな公共交通・町営バス東根線・山交バスの路線バス等との接続を目的とします。

早朝の運行
- 施策２の導入に合わせ、「べにのすけタクシー　ジュニア（仮称）」を導入
  - ➢寒河江方面への新たな公共交通・町営バス東根線・山交バスの路線バス等との接続を目的とします。

通院等の生活を支える移動手段に必要となる運転手確保・運行体制強化【取り組み方針２】

施策４ 地域公共交通の運行に必要な運転手の確保し、運行体制を強化します（基本方針1,2,3と目標3に対応）

- 下記のメニューで取り組み可能なものから随時実施
  - ➢スクールバス等の２種免許が不要な移動手段については、１種免許保有運転手も運転するようにします。
  - ➢１種２種を問わない運転手募集の周知に、町・交通事業者、地域が一体となって取り組みます。
  - ➢地域公共交通に必要な運転手を確保する手法の検討・準備を行います。　⇒　施策評価及び新たな運転手確保施策の実施します。

施策５ 町営バスや「べにのすけタクシー」等の利用状況に関するデータの取得及び活用します（基本方針1,2,3と目標4に対応）

- 「路線バス」や「べにのすけタクシー」「べにのすけタクシー　ジュニア（仮称）」における利用状況に関するデータを取得及び活用します。
  - ➢①路線バスデータ：便別・バス停ごとの乗車人数・降車人数等の利用状況　②べにのすけタクシー等のデータ：乗車場所・降車場所、利用件数等の利用状況

地区毎の生活交通へのニーズと来訪者の二次交通へのニーズに対応できるモビリティトライアル【取り組み方針３】

施策６ 『べにのすけタクシー』を休日にも運行します（基本方針2と目標4,5に対応）

- 現在運行している高齢者向けの「べにのすけタクシー」を休日にも運行します。
  - ➢「河北町モビリティトライアル」のもとで休日利用の周知や活用策を、地域との連携・協力を得ながら実施します。

施策７ 町営バス、スクールバスの運行時間及び運行経路等の一体的な見直しを行います（基本方針1,2,3と目標1,2,4,5に対応）

- 利用の少ない路線・便について、地域との連携・協力を得ながら、経路や運行時間を見直し・改善します。
  - ➢運行時間や経路が重複している路線バスとスクールバスを統合し、スクールバスへの乗車へと運行形態を変更することで、運行効率向上を図ります。

施策８ 町内6地区ごとに地域公共交通の利用促進・改善・新たな移動手段導入の取り組みを進めます（基本方針2と目標4,5に対応）

- 町内６地区それぞれの状況やできる範囲を踏まえながら、地域公共交通の利用促進や改善、新たな移動手段導入取り組みを進めていきます。
  - ➢地区での話し合い（住民懇談会）を継続していきます。

施策９ 滞在型観光を可能とする町内周遊を目的とした移動手段の実証・実装に取り組みます（基本方針３と目標５に対応）

- 観光客の町内周遊及び広域周遊を支える移動手段の実装にあたって、町内観光施設や宿泊施設等との協力・連携体制構築を図ります。

⇨ 実証運行、利用状況に関するデータの取得・検証（実装に向けた検討）

⇨ 施策の実施

⇨ 必要な運転手が確保でき次第実証運行、利用状況に関するデータの取得・検証（実装に向けた検討）